

『ほめられる』機会をつくりましょう！

2014年も残すところ僅かとなりました。子どもたちの成長のためにこれまで様々な取組をされたことだと思います。そんな子どものがんばりをしっかりとほめる教師であることはとても大切なことです。しかし、なかなか「ほめる場面がない…」という声も聞かれます。子どもの行動を待つのではなく、「ほめられるきっかけや機会をつくる」ことに積極的に取り組んでみてはどうでしょうか？

ほめたいと思う子どもに以下の例のような準備や声かけの支援を行い、発表させたり紹介したりしましょう。

- ・「自力解決の場面で支援をして自信をもたせ、発表をさせる。」
- ・「書く活動の場面でよい記述を具体的に認め、コメントする。」
- ・「事前に練習をさせておいて、できたらみんなの前で紹介する。」などです。



「ほめる」ための手順

- ①失敗しない支援をする
- ②行動を成功体験にする
- ③視点を示してほめる

学習面だけでなく、生活の場面でも同様な支援をし、できた時には、子どもと一緒に喜びながらほめましょう。
子どもが『ほめられる』ための“きっかけ”や“機会”を作り、『子どもが喜ぶ姿をつくりだす教師』をめざしましょう！

学力向上のための手びき 授業を支える指導技術【発問・指示】編

わかりやすい指示や発問は、何を（考える）のかを明確にし、学ぶ意欲を高めることにつながります。子どもたちが理解しやすいような伝え方を工夫しましょう。

<p>Point1 わかりやすく話すために</p> <ol style="list-style-type: none"> ①<u>ゆっくりと短い言葉</u>で話す。 ②<u>具体的な言葉</u>で伝える。 ③否定的な表現ではなく、<u>肯定的な表現</u>に言い換えてモデルを示す。 ④一文で一つの動きができる指示をする。 	<p>教師のしゃべりすぎは禁物！</p>
<p>Point2 集中して聞かせるために</p> <ol style="list-style-type: none"> ①見通しを明確にする。 ②話中能集中できる環境を作る。 ③場に応じた話し方を工夫する。 	
<p>Point3 多様な考えを引き出すために</p> <ol style="list-style-type: none"> ①発問の後には、<u>考える時間</u>をとる。 ②一問多答になる発問を工夫する。 ③教師は発言を減らし、時には沈黙することによって考えさせる。 ④子どもが思考したり作業したりしている時は、それを妨げるような発問や指示は控える。 	

「きちんと書きなさい。」

「きちんと」って、どう書けばいいの？

・「OOについて話します。」

・「これから2つのことを話します。」

※たくさんの指示は内容を可視化する！

On the Job Training (学校内人材育成) に取り組めますか!?

ひと昔前は、授業について先輩の先生と語り、示唆を受けたものでした。現在は各学校での校内研究が中心的な役割を担い、資質向上に努めています。しかし、学校に求められることは多様化・複雑化しています。これからは学力向上を含めた様々な課題に対応できる人材を OJT (On the Job Training) によって育てていくことが大切です。特に、学級経営や学習指導など（例：上手な指示の出し方や子どものしかり方、保護者対応）、実際に働く先輩・同僚の教師から教わる方が、実践的で効果的な場合があります。学校全体から隣の席までの様々な研修を上手に生かして、学校や子どもの課題に対する解決能力やスキルをもった教師力の向上をめざしていきましょう。

【参照 宮崎県教育委員会 OJT 推進のための手引】